

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン あぜかり 1階		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	平成26年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成25年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①転倒などの事故を少しでも減らせる様に、努力をする。「気づき・ひやり はっこの提出」 ②入居者様・御家族様との信頼関係を築いていく為に、より多くのコミュニケーションを取っていく。 ③外出支援を増やす。※②③は施設全体として取り組んでいる事です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>長崎市郊外の新興団地の中に事業所はある。開設以来、自治会に加入し、清掃活動や運動会への参加、また年2回の小学生との交流が行われており、地域に溶け込んでいる事業所である。職員と管理者とのコミュニケーションはスムーズに行われており、マニュアルの改善提案等はスピーディに処理され、介護の現場へ直ぐに反映されている。利用者により良いケアを行いたいという思いが、管理者始め職員全員にあり、各フロアでの目標設定や声かけの仕方の改善に繋がっている。日常的な外出支援にも力を入れており、団地内の散歩や利用者からの急な要望にも車両を使って柔軟に対応しており、常に利用者の立場に立ったケアが実践されている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、あぜかり理念、各フロアの目標を総合しながら、職員は共有し日々の業務に取り組んでいる。	「楽しく・優しく・元気よく」を理念として掲げている。年間を通じて様々な行事を企画して利用者楽しんで頂きたいという姿勢で取り組んでいる。「利用者を自分の親と思って接する心」が職員に浸透しており、話しかける際目線や口調にも配慮をして、日々の支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には自治会からも参加して頂いており、団地内の夏祭りや、市民大清掃、班の清掃に参加しています。また、廃品回収なども行っています。	地区の自治会に加入しており、月に1回公園の清掃に参加している。事業所が行っているペットボトルのキャップ収集に協力を得たり、地域の運動会へ職員が参加する等、日頃から相互に交流する機会が多い。また地区の小学生との交流も年2回実施しており、地域に溶け込んだ事業所である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の総合学習の参加及び、自治会総会等に参加させて頂いております。また運営推進会議に参加して頂きながら、認知症の方々への理解を深める努力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して頂いている方々からの意見、要望等があるので持ち帰り、サービスの向上に活かしている。	会議では市役所や包括支援センター、地域の住民の代表、家族から避難訓練や緊急時の対応について特に質問が多く寄せられている。避難訓練での地域住民との連携や新人に対する教育、また避難時のマニュアル整備の重要性についてアドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営の中で不明な点がある場合等は、直に伺いを入れ、情報の収集を行っている。	日頃から行政とは運営推進会議への出席依頼をはじめ、不明点を電話で問い合わせるなど、連絡を取っている。市主催に研修にも積極的に参加している。また、法人内の全体研修の際に地域包括センターから講師を招き研修を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に見守り、言葉掛けを行いながら、統一したケアが出来る様、ミーティング及び、申し送りの確実性の再確認を行う。	前回の評価にて身体拘束の理解を深める余地があると期待された項目である。その後研修やカンファレンス時において、身体拘束についての認識を正しく持つよう教育が行われている。また利用者の部屋の位置については、見守り体制を強化する為に、介護度によって変更が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のひやりはっとから言葉の暴力に注意するよう等の努力に努めている。施設内、外での研修に参加し常に意識しながら業務を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、学ぶ機会をもつようにしている。伺いがあると、説明が出来る様。備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、御家族に十分に説明を行い、不安や疑問等を尋ね、納得、同意の上で捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況報告を進んで行ったり、玄関に御意見箱を設置し、無記名で記入出来る様になっている。重要事項説明書にも、苦情窓口の明記を行っている。また、運営推進会議に来て頂いた方には、その場で意見・要望が無いか尋ねている。	家族の訪問は週2回以上から半年に1回と様々である為、来訪時に要望を聞き取ったり、遠方の家族には電話を利用している。プランを送る際に近況を書いて送っている。今までに意見を反映して、スリッパを新調した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・各フロアリーダーにまず提案を下ろし、各スタッフからの意見収集を基本としている。1回/Mテーマを決め、全体で考える場も設けている。	管理者は日々の申し送りや業務時間中いつでも職員の話を聞く機会を持つように心がけており、物品の購入の要望にも応えている。夜勤や休暇は職員の希望を優先してシフトを組み立てている。各フロアには、職員自らが考えた目標が掲示されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は毎月の勤務作成にあたり職員の希望休みを伺いながら行っており、勤務状況の把握を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初日のオリエンテーションを大切に、法人の説明、理念の内容を話し、研修ノートでのやり取りも行っている。ずっと働いている職員にも外部研修参加等の呼び掛けを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催、包括支援センター主催のネットワーク会議、GH連絡協議会などに参加し他施設の方との交流を行っている。(困難なケースの話など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で話の傾聴を行い、不安が無い様、信頼関係、馴染みの関係を築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所が決定、初回訪問の際、御家族からの苦情や、困っている事の聴き取りを参考にサービスにつなげる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の生活暦を出来るだけ情報を収集しコミュニケーションの中で役立つ様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別対応を時折盛り込みながら1対1での会話の中から本心を引き出す工夫を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は進んで挨拶と共に近況や体調報告を行いながら、御家族との信頼関係を作る努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所の際、本人の使い慣れた物や、大切な物を持ってきて頂いたりしている。また御家族の協力の基、外出・外泊を行っている。	利用開始時に個人情報収集し、利用者が大切にしている人や場所を知る様に努めている。その後も地元の友人の面会や電話・手紙による交流を通じ、関係を深める様に支援している。家族の協力により美容院や法事・墓参り等も出かけており、なじみ関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様 日中はホールで集える工夫を行い、職員がクッション役となり入居者同士が上手くコミュニケーションが図れる工夫に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居されていた御家族様が時折 立ち寄り、お話しをされて行きます。また、ペットボトルのキャップを持ってきて下さったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者及び、御家族の要望を基に、少しでも希望が叶う様な支援に努めている。	普段の会話から本人の思いや意向を汲み取り、表情を見ながら把握に努めている。その場で得た情報は直ぐに職員間で共有している。職員は一対一で話す時間を居室等で作り、ゆっくりと話を聞いている。発語困難な方は、筆談で意思疎通を図る等工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報と実際に入所されてからの様子の違いも含め、把握する様に努めている。(統一した介護につなげる)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を記入しながら、1人1人の心身の状態、1日の過ごし方等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント及び、モニタリングはケアカンファ時及び、体調の変化に応じて検討して行きながら、ケアの統一を行っている。	アセスメントにより、課題の分析を行い介護計画を作成している。目標は6ヶ月で設定し、モニタリング・カンファレンスを実施している。利用者や家族の意見は日々の会話や電話で聞き取り反映している。個人記録には、計画に番号が付けられ、実行した都度、番号を書き込むような仕組みがあり、職員全員が一目でわかるような工夫を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とケアプランとの反映を基本にしている。情報の共有にもつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の馴染みの美容室にお連れしたり、個別に買い物にもお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に寄付するダンボールを集め自治会からはペットボトルキャップを頂いている。小学校(4年生)と交流を行っている。(総合学習参加)また自治会の夏祭りに参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に母体の医療機関の説明と連携の話をし、要望を踏まえながら、診察をして頂く事に納得して頂いている。夜間の緊急の指示も出して頂いている。	利用開始時に母体である医療機関との関係を説明し、かかりつけ医の移行に同意を得ている。他の診療科目は近隣の専門医との連携を構築し受診支援を行っている。家族が付き添った場合は受診結果の報告を受け、職員全員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/Wの医療連携のNSの関わりも大切に、状況を把握して頂き、助言をもらう。発熱や体調の変化の際は母体医療機関に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設でのADLや現状を記入した用紙を渡し、退院時は病院よりバイタル、排便、注意事項等記入した用紙を頂き連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体力低下が見受けられる方には密に医療機関と連携とりながら、最善の方法を医師、御家族と話し合いながら決定している。	母体法人の方針に従い、事務所で看取りの支援は行わない事としている。重度化した場合の対応は食事の摂取等が出来なくなった段階で、医療機関からの意見も聞き家族の同意を得た上で医療機関へ移行するケースが殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内外の研修に参加したり、個別的に心臓マッサージの実演をしたりして、急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定等を考え訓練を行っている。水消火器を使用しての個別指導も行っている。地域との協力体制は具体的には出来てはいないが、地域の方から、「私達が施設を助けて行きましょう」と言葉を頂いている。	平成25年9月より月1回の消防訓練を行い、消防署立会と夜間想定を年1回ずつ予定している。災害訓練マニュアルを作成しており、避難場所の確保、緊急連絡網を設置している。運営推進会議等で地域住民に災害時利用者見守りと訓練参加を呼び掛けているが、実際の参加には至っていない。また避難時のマニュアルの整備も、現在取組中である。	地域とのコミュニケーションが密であり、地域住民も災害訓練に参加したい意向はあるもののスケジュールがあわず、参加できない状況である。今後も継続した働きかけを行い参加に繋がる事を期待したい。またマニュアルの整備を行い、職員間での共有化が徹底される事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人1人の自尊心を傷つけない様、常に尊敬の気持ちを持ち、心ある言葉掛けを行います。	個人記録は事務所で保管しており来訪者の目につかないように配慮している。写真掲載については家族に了承を得ている。職員の採用時に守秘義務に関して誓約書を得ている。利用者への言葉掛けの際には、「自分の身内に対する気持」で接し、人格を尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の話を傾聴し、本人様の意思を引き出せる様な言葉掛け、問い掛けを行います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせ、1人1人のペースに応じての関わりを行います。本人の意思を最優先にして、ゆっくりとした生活を送って頂ける様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/Mの散髪と季節に合った衣類を本人様と共に選びながら更衣を行います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最近では少なくなりましたが、食材の下ごしらえや、お皿拭き等 一緒に行います。また畑を作っているのので、植え、収穫をして、皆で食べる様にします。	食事は法人本部の栄養士が作成した献立を基にユニット毎に作っている。利用開始時に嗜好調査を行い、代替メニューやとろみ食、アレルギーにも配慮している。正月のおせち、誕生日会の利用者希望の菓子作り、ピクニック時の弁当など利用者が楽しみになる工夫が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力摂取重視ですが、栄養が十分補える様、時には介助を行いながら、1人1人に応じた食事量、形態を提供します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、洗面共に自立支援(見守り)重視であるが、必ず仕上げ磨きと確認を行っています。夕食後の義歯洗浄も重要視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄チェックノートに記入を行い、排泄の間隔や、排便状況を把握し、紙おむつ、リハビリパンツの不適切な使用をしない様取り組んでいる。	現在、夜間のみおむつを利用している利用者が数名いるが、昼間は排泄チェックノートで排泄パターンを把握し、早めの誘導を心がけている。利用開始時はおむつを使用していた利用者が、リハビリパンツや布パンツにパッドへ改善した例があり、自立へ向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分補給に努め、排便(3日間)が無い時は、協力医療機関に連絡し、下剤の調整 指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3回/W入浴もしくは、体調不良の方は陰部洗浄・清拭を行う。気分に合わせて、希望の時間帯に入浴をして頂いている。	入浴は週3回曜日を決めて、午前と午後に希望の順番で行っている。脱衣所には冷暖房を完備し、車椅子の利用者も湯船に浸かれるよう支援している。入浴拒否がある場合は時間帯を変えたり、呼びかけ方法を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体調に合わせて、休息の時間を設けて無理なく過ごして頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬無い様 個人ファイルに処方内容をファイリングし、効能、副作用等(用法及び用量)が把握できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を見極めながら可能な限り役割を持てる様な支援を行います。気候が良い時は戸外へ連れ出します。(外の空気に触れる)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時期に花見やピクニック(弁当持参)おくんち、ランタン等 戸外へ出向き気分転換を図る支援を行っている。	日頃は団地の中を散歩したり、隣接する系列施設を訪問する事が多い。利用者からの急に「外出したい」という希望に対しても、事業所所有のバスを使って柔軟に対応している。月に1度のピクニック等に出かける他、結婚式や墓参り、正月の外泊など希望に沿った支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解能力と、御家族の了承を得て、小銭程度の管理出来る方は個別に買い物に出向く等の楽しみを作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙(ハガキ)の代筆や、本人様が御家族に電話したいと要望があれば、直に行ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の換気、室温に配慮し季節に合った環境整備を行っている。	ユニット毎に利用者と職員が飾りつけをして、楽しい空間作りに努めている。リビングは日当たりが良く、窓際に畳のスペースがあり洗濯物を畳んだり、昼寝をしたりと思いいくつろげるような配慮が見られる。窓からは畑を望む事ができ、収穫の様子を見ながら季節感を味わえるように、工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳スペースが設置されており、各々が思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でゆっくりテレビを観たい方はテレビの持込が出来、使い慣れた物の持参も出来ます。	掃除は毎日午前中に職員が行っている。シーツ交換は週に一回行われ、清潔保持に努めている。持ち込み制限はなく、テレビを持ち込んでいる利用者もいる。入口には好みの暖簾がかけられ、観葉植物や家族の写真などを飾り、温かみのある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室トイレ、風呂場に手摺りが設置されており、立位保持可能な方は、出来るだけ立位保持出来る支援を行います。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン あぜかり 2階		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>申し送りノートを作成し、出勤したら必ず目を通す。気付いた事、申し送りが必要な内容に関しては、1人の職員が記入するのではなく全員で記入していく。「申し送りの徹底」</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、あぜかり理念、各フロアの目標を総合しながら、職員は共有し日々の業務に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には自治会からも参加して頂いており、団地内の夏祭りや、市民大清掃、班の清掃に参加しています。また、廃品回収なども行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、入居者様を実際に見て頂いたり、認知症の方の生活の様子等の話を行っている。また、小学校の総合学習の参加及び、自治会総会等の参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して頂いている方々からの意見、要望等があるので持ち帰り、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターからの研修参加や、運営の中で不明な点がある場合等は、直に伺いを入れ、情報の収集を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを重視し、自由に動いて頂ける様 障害物を最小限度にしている。1人1人のケアの統一と確認及び、申し送りの徹底。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のひやりはっとから言葉の暴力に注意するよう等の努力に努めている。施設内、外での研修に参加し常に意識しながら業務を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、学ぶ機会をもつようになっている。伺いがあると、説明が出来る様。備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者・御家族に不安や疑問が無いかな尋ね、十分な説明を行い、納得、同意の上で捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況報告を進んで行ったり、玄関に御意見箱を設置し、無記名で記入出来る様にしている。重要事項説明書にも、苦情窓口の明記を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・各フロアリーダーにまず提案を下ろし、各スタッフからの意見収集を基本としている。1回/Mテーマを決め、全体で考える場も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は毎月の勤務作成にあたり職員の希望休みを伺いながら行っており、勤務状況の把握を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初日のオリエンテーションを大切にし、法人の説明、理念の内容を話し、研修ノートでのやり取りも行っている。新人研修も行っている。(オムツの当て方など)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催、包括支援センター主催のネットワーク会議、GH連絡協議会などに参加し他施設の方との交流を行っている。(困難なケースの話など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に入所当初は不安感で一杯と思われる為、寄り添い、話の傾聴を重視し、安心感を与える工夫に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所が決定、初回訪問の際、御家族からの苦情や、困っている事の聴き取りを参考にサービスにつなげる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の生活暦を出来るだけ情報を収集しコミュニケーションの中で役立つ様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別対応を時折盛り込みながら1対1での会話の中から本心を引き出す工夫を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は進んで挨拶と共に近況や体調報告を行いながら、御家族との信頼関係を作る努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある品物を居室に設置する等して、不安感を少しでも解消出来る様に努めている。(アルバムなどの持参)外出などの協力。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様 日中はホールで集える工夫を行い、職員がクッション役となり入居者同士が上手くコミュニケーションが図れる工夫に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居されていた御家族様が時折 立ち寄り、お話をされて行きます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成にあたり、本人様、御家族様に少しでも要望が叶える様 聴き取り、サービスの提供に役立っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報と実際に入所されてからの様子の違いも含め、把握を行っている。(統一した介護につなげる)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の重要性を各職員に把握してもらい、日々の記録そのものが、サービスの提供と、ケアプラン作成の重要なベースとなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント及び、モニタリングはケアカンファ時及び、体調の変化に応じて検討して行きながら、ケアの統一を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とケアプランとの反映を基本にしている。情報の共有にもつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の馴染みの美容室にお連れしたり、個別に買い物にもお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に寄付するダンボールを集め自治会からはペットボトルキャップを頂いている。小学校(4年生)と交流を行っている。(総合学習参加)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に母体の医療機関の説明と連携の話を行い、要望を踏まえながら、診察をして頂く事に納得して頂いている。夜間の緊急の指示も出して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/Wの医療連携のNSの関わりも大切に、状況を把握して頂き、助言をもらう。発熱や体調の変化の際は母体医療機関に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設でのADLや現状を記入した用紙を渡し、退院時は病院よりバイタル、排便、注意事項等記入した用紙を頂き連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体力低下が見受けられる方には密に医療機関と連携とりながら、最善の方法を医師、御家族と話し合いながら決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的、個別的に心臓マッサージの実演をしたりして、急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定等を考え訓練を行っている。水消火器を使用しての個別指導もしている。地域との協力体制は具体的には出来てはいないが、地域の方から、「私達が施設を助けて行きましょう」と言葉を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬いの気持ちを忘れずに常に心ある言葉掛けを行う様 心掛ける努力をしている。(フロアー職員同士注意をし合う)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の話を傾聴し、本人様の意思を引き出せる様な言葉掛け、問い掛けを行います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせて、1人1人のペースに依じての関わりを行います。急かす様な言葉掛けに注意をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/Mの散髪と季節に合った衣類を本人様と共に選びながら更衣を行います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最近では少なくなりましたが、食材の下ごしらえや、お皿拭き等 一緒に行います。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力摂取重視ですが、栄養が十分補える様、時には介助を行いながら、1人1人に依じた食事量、形態を提供します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、洗面共に自立支援(見守り)重視であるが、必ず仕上げ磨きと確認を行っています。夕食後の義歯洗浄も重要視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は1人1人の排泄の間隔や、排便状況を把握し、紙おむつ、リハビリパンツの不適切な使用をしない様取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分補給に努め、排便(3日間)が無い時は、協力医療機関に連絡し、下剤の調整 指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3回/W入浴もしくは、体調不良の方は陰部洗浄・清拭を行う。気分に合わせて、希望の時間帯に入浴をして頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	目り張りある生活を行う為にも、1人1人の体調や無理なく過ごして頂ける様 休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬無い様 個人ファイルに処方内容をファイリングし、効能、副作用等(用法及び用量)が把握できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を見極めながら可能な限り役割を持てる様な支援を行います。気候が良い時は戸外へ連れ出します。(外の空気に触れる)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時期に花見やピクニック(弁当持参)おくんち、ランタン等 戸外へ出向き気分転換を図る支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解能力と、御家族の了承を得て、小銭程度の管理出来る方は個別に買い物に出向く等の楽しみを作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙(ハガキ)の代筆や、本人様が御家族に電話したいと要望があれば、直に行ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の換気、室温に配慮し季節に合った環境整備を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳スペースが設置されており、各々が思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でゆっくりテレビを観たい方はテレビの持込が出来、使い慣れた物の持参も出来ます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室トイレ、風呂場到手摺りが設置されており、立位保持可能な方は、出来るだけ立位保持出来る支援を行います。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン あぜかり 3階		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者によって重りをつけての運動、平行棒での歩行訓練、屋外散歩等のメニューを考え少しでも体を動かしていく。「施設で出来る運動を行う」</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	周りに笑顔で接して「優しく 楽しく 元気よく」を心掛けて日々の業務を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には自治会からも参加して頂いており、団地内の夏祭りや、市民大清掃、班の清掃に参加しています。また、廃品回収なども行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、入居者様を実際に見て頂いたり、認知症の方の生活の様子等の話を行っている。また、小学校の総合学習の参加及び、自治会総会等の参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して頂いている方々からの意見、要望等があるので持ち帰り、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターからの研修参加や、運営の中で不明な点がある場合等は、直に伺いを入れ、情報の収集を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを重視し、自由に動いて頂ける様 障害物を最小限度にしている。1人1人のケアの統一と確認及び、申し送りの徹底。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のひやりはっとから言葉の暴力に注意する様努めている。また、気付いた事があればその場で注意を行ったり、毎日の申し送りの時にも全体的に注意を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、学ぶ機会をもつようになっている。伺いがあると、説明が出来る様。備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に訪問し、聴き取りやADL状態を把握し入所時は1つ1つの項目を説明し、納得、同意、確認の上、捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に近況報告を進んで行ったり、玄関に御意見箱を設置し、無記名で記入出来る様にしている。重要事項説明書にも、苦情窓口の明記を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・各フロアリーダーにまず提案を下ろし、各スタッフからの意見収集を基本としている。1回/Mテーマを決め、全体で考える場も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は毎月の勤務作成にあたり職員の希望休みを伺いながら行っており、勤務状況の把握を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初日のオリエンテーションを大切にし、法人の説明、理念の内容を話し、研修ノートでのやり取りも行っている。新人研修も行っている。(オムツの当て方など)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催、包括支援センター主催のネットワーク会議、GH連絡協議会などに参加し他施設の方との交流を行っている。(困難なケースの話など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に入所当初は不安感で一杯と思われる為、寄り添い、話の傾聴を重視し、安心感を与える工夫に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所が決定、初回訪問の際、御家族からの苦情や、困っている事の聴き取りを参考にサービスにつなげる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の生活暦を出来るだけ情報を収集しコミュニケーションの中で役立つ様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で受容と傾聴を行い、理解を深める様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況の報告を行ったり、最近では御家族に行事の参加のお話しをしたりして、入居者・家族・職員が一緒に過ごせる機会を多く作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある品物を居室に設置する等して、不安感を少しでも解消出来る様に努めている。(アルバムなどの持参)外出などの協力。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様 日中はホールで集える工夫を行い、職員がクッション役となり入居者同士が上手くコミュニケーションが図れる工夫に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居されていた御家族様が時折 立ち寄り、お話をされて行きます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成にあたり、本人様、御家族様に少しでも要望が叶える様 聴き取り、サービスの提供に役立っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報と実際に入所されてからの様子の違いも含め、把握を行っている。(統一した介護につなげる)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の重要性を各職員に把握してもらい、日々の記録そのものが、入居者の状態の把握になるので必ず、記録に目を通す様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント及び、モニタリングはケアカンファ時及び、体調の変化に応じて検討して行きながら、ケアの統一を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録とケアプランとの反映を基本にしている。情報の共有にもつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の馴染みの美容室にお連れしたり、個別に買い物にもお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に寄付するダンボールを集め自治会からはペットボトルキャップを頂いている。小学校(4年生)と交流を行っている。(総合学習参加)また年に1回の自治会の夏祭りに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に母体の医療機関の説明と連携の話を行い、要望を踏まえながら、診察をして頂く事に納得して頂いている。夜間の緊急の指示も出して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/Wの医療連携のNSの関わりも大切にし、状況を把握して頂き、助言をもらう。発熱や体調の変化の際は母体医療機関に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設でのADLや現状を記入した用紙を渡し、退院時は病院よりバイタル、排便、注意事項等記入した用紙を頂き連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体力低下が見受けられる方には密に医療機関と連携とりながら、最善の方法を医師、御家族と話し合いながら決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行ったり、個別的に心臓マッサージの実演をしたりして、急変時に備えている。AEDの講習会等も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定等を考え訓練を行っている。水消火器を使用しての個別指導も行っている。地域との協力体制は具体的には出来てはいないが、地域の方から、「私達が施設を助けて行きましょう」と言葉を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく笑顔で接する様な言葉かけを心掛け、入居者の自尊心を傷つけない様に対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の話を傾聴し、本人様の意思を引き出せる様な言葉掛け、問い掛けを行います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせて、1人1人のペースに応じての関わりを行います。急かす様な言葉掛けに注意をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/Mの散髪と季節に合った衣類を本人様と共に選びながら更衣を行います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最近は少なくなりましたが、食材の下ごしらえや、お皿拭き等 一緒に行います。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力摂取重視ですが、栄養が十分補える様、時には介助を行いながら、1人1人に応じた食事量、形態を提供します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、洗面共に自立支援(見守り)重視であるが、必ず仕上げ磨きと確認を行っています。夕食後の義歯洗浄も重要視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックノートに記入を行い、排泄の間隔や、排便状況を把握し、紙おむつ、リハビリパンツの不適切な使用をしない様取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分補給に努め、排便(3日間)が無い時は、協力医療機関に連絡し、下剤の調整 指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3回/W入浴もしくは、体調不良の方は陰部洗浄・清拭を行う。気分に合わせて、希望の時間帯に入浴をして頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	目り張りある生活を行う為にも、1人1人の体調や無理なく過ごして頂ける様 休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬無い様 個人ファイルに処方内容をファイリングし、効能、副作用等(用法及び用量)が把握できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を見極めながら可能な限り役割を持てる様な支援を行います。気候が良い時は戸外へ連れ出します。(買い物に行きたい方も居られる)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時期に花見やピクニック(弁当持参)おくんち、ランタン等 戸外へ出向き気分転換を図る支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解能力と、御家族の了承を得て、小銭程度の管理出来る方は個別に買い物に出向く等の楽しみを作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が落ち込んでいる時や、家族と話したいと言われる時は、電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の換気、室温に配慮し季節に合った環境整備を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳スペースが設置されており、各々が思い思いに過ごせる工夫をしている。また1人になりたい時は居室へ戻り、自分だけの時間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でゆっくりテレビを観たい方はテレビの持込が出来、使い慣れた物の持参も出来ます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室トイレ、風呂場到手摺りが設置されており、立位保持可能な方は、出来るだけ立位保持出来る支援を行います。		